

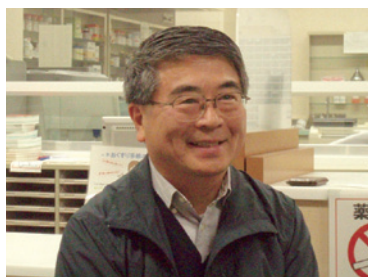


東京理科大学薬学部薬学科 海保研究室(医療薬剤学)

話し手：海保 房夫 准教授

Fusao Kaiho

1960年に設立された東京理科大学薬学部。2003年に薬学部は都心の神楽坂キャンパスから千葉県野田市に移転しました。緑豊かで広大な野田キャンパスにはモダンな校舎が並び、さらにDDS研究センター、ゲノム創薬研究センターなど新薬創製の研究施設を備えています。今回は、医療薬剤学の海保房夫先生にお話しを伺いました。



海保房夫准教授



立ち上げから関わった模擬薬局

明治から続く理系教育の歴史

東京理科大学の前身は、1881年に東京帝国大学を卒業した21名の青年理学士が設立した東京物理学講習所(後に東京物理学校に改称)です。当時、文系の教育が活発という社会状況のなかで、東京物理学校は理学の普及に大きな役割を果たしたといわれています。その後、1949年の新制大学の発足とともに東京理科大学が設立され、現在では8学部33学科の理工系総合大学になりました。明治の文豪、夏目漱石の小説「坊ちゃん」に東京物理学校が登場することから、2006年の創立125周年を記念して誕生したイメージキャラクターは「坊ちゃん」です。

薬学部は設立時から研究を志向しており、現在の4年制の生命創薬科学科のほとんどの学生が大学院に進学しますし、6年制の薬学科も毎年暮れに、6年生全員が約2年半の研究成果を発表します。長期実務実習などで研究を継続することが大変なのですが、この研究発表を達成することが、薬剤師に求められている考える力の育成に役立っていると思います。

新たに設けられた医療系研究室

私は薬学部10期生で、卒業して病院での実務を経験した後、母校に戻ってきました。講義で調剤学を教えながら、外用剤や薬史学の研究も行っています。以前は、物化系、有機系などの研究室によって学内が構成されていましたが、再編により医療系が設けられ、現在は、実務経験豊富な教員も増えました。海保研究室は医療系として、医療薬剤学を専門分野としています。

神楽坂キャンパスから野田キャンパスに移転した時に、校内に設けた模擬薬局に立ち上げから関わり、「ドラえもん」をもじって「おはえもん薬局」と命名しました。模擬薬局は患者さんとのやり取りなどコミュニケーション教育にも役立っています。

様々な分野で力を発揮する人材

薬学部は設立から53年間で多くの卒業生を輩出しています。病院や薬局で活躍する薬剤師はもちろんのこと、その他にも行政、民間企業、法曹関係、弁理士、大学教員、鍼灸師、さらに医師・歯科医師など様々な分野で活躍しています。私自身も鍼灸治療にも興味があり、資格を取得しました。私見ですが、個性的な人材が集まるのが、理科大薬学部の特徴ではないでしょうか。以前は薬剤師を志向する学生は少なかったのですが、現在の6年制薬学科の学生のなかには、薬剤師を目指す学生が以前に比べて多くいて、神楽坂キャンパスで学んだ私たちと比べると真面目という印象があります。しかし私の学生時代もそうでしたが、やはり型にはまらない個性豊かな学生がいます。そういうところが、薬学部と薬剤師の可能性を広げてくれるのではないかと期待しています。

学校メモ

- ◇明治14(1881)年 前身の東京物理学講習所の設立
- ◇明治16(1883)年 東京物理学校に改称
- ◇大正4(1915)年 財団法人東京物理学校の設立
- ◇昭和24(1949)年 東京理科大学の設立
- ◇昭和35(1960)年 薬学部を設置
- ◇平成15(2003)年 野田キャンパスに移転
- ◇平成18(2006)年 薬学科(6年制)、生命創薬科学科(4年制)を設置
- ◇1学年の定員 薬学科100名、生命創薬科学科100名。現在の在校生は薬学科550名、生命創薬科学科425名、大学院修士課程182名、博士課程20名(内2013年4月の入学人数は学部193名、大学院93名)